

令和4年度静岡県立看護専門学校学校関係者評価結果報告書

1 評価概要

対象期間：令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

実施日：令和4年7月26日（火）

場所：静岡県立看護専門学校会議室（Web会議システム接続の併用開催）

評価委員：静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会（委員3名、敬称略、順不同）

平賀 聖悟（三島総合病院名誉院長）、杉山 眞澄（静岡県立大学准教授）、石田 盛己（個人）

評価方法：令和4年度第1回学校関係者評価委員会を開催し、令和3年度の学校自己評価について、学校関係者評価委員から評価、意見をいただいた。

2 評価結果

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成する責務のもと、主体的に学習する人のための環境整備、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観や豊かな感性を持って看護、助産を実践する人を育てることを教育理念に掲げ、そうした人づくりの上に、専門的知識、技術、態度及び幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的としている。 これらを踏まえ、令和3年度の看護1学科及び助産学科のカリキュラム改正において、教育目標を改めるとともに、学生自身が将来の目標をイメージしやすくなるよう卒業生像も示すこととした。 カリキュラム改正に向けて教員間で議論を重ねることで、教育理念、教育目的に対する理解を更に深めることができた。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は2.8点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で概ね適切な評価だったが、「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の評価については、約5割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校創立以来、掲げた教育理念の下、看護教育に取り組んでおり、令和3年度の看護1学科及び助産学科のカリキュラム改正では、この教育理念や改正の趣旨を踏まえ、教育目標を改めるなど、適切に対応することができた。 教育理念、教育目的の学生及び保護者への周知については、教員が理解を深めたことで、日々教育を実践する中で、学生、保護者の理解が深まるよう取り組むことができた。今後も、周知には工夫して取り組んでいく。（例：学生の名札の裏面に理念等を記載、入学前オリエンテーションの通知に文書を同封など） 令和4年度においては、看護1学科及び助産学科は、新カリキュラムの新たな教育目標の下、看護師、助産師の育成に取り組んでいく。 看護2学科では、令和4年度にカリキュラム改正を予定しており、社会情勢の変化やニーズを踏まえた教育目標の見直しを行うこととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケートの評価点数については、昨年度との比較を用意してもらえて良かった。評価点数を確認すると、全体的に改善の傾向が見られる。カリキュラム改正の動きの中で評定が上昇したのは評価できる。 学校の理念などが学生、保護者等に周知されているかという点については、学科ごとに違いが出るのではないかと思う。全体的に評価点が上がっているが、学生・保護者等への周知の評価が、この中では低い。いかに、具体的に分かりやすく説明できるかということがポイントだと思う。説明の仕方なども、教員で統一できれば良い。概ね評点が上がっているの、ここは評価できると思う。 学校の理念・目的等が学生保護者に周知されているかという点については、毎年厳しい評価が出ている部分であったと思う。昨年度と比較すると、評点は上がっているし、取組についても、学生の名札の裏面に理念を記載することや、入学前オリエンテーションの通知に文書を同封することなど、様々な取組も行われている。こういった取組を行うことで、徐々に浸透していくのではないかと思う。このまま色々な取組を続けていきたい。

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的の下、計画的な事業執行に努め、運営会議等での迅速な意思決定により効率的な学校運営を行った。 ・ICT化を推進するため、教員をICTに関する研修会に参加させるなど、ICT活用に向けた準備を進めた。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 ・各評価項目で概ね適切な評価だったが、「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営については、教育理念、教育目的に基づき、計画的、効率的な運営を行い、概ね適切に対応することができた。 ・情報システム化等による業務の効率化については、新たなツールの導入や機器の更新など情報システムの活用に取り組んでおり、具体的には、infoClipper及びANPICの導入により、成績・出席管理、情報発信等の事務処理の簡素化を図った。また、カリキュラム改正の中で、教育目標に、看護実践におけるICTの活用を位置付けることとした。 ・今後は、学びにおけるICTの活用、情報システム化に重点を置き、情報分野に精通した教員を中心としたICT化推進チームを設置するなど、情報システムの更なる活用による効果的な教育の実施を図っていく。（例：既存システムの効率的な活用、電子教科書の導入等の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化が複雑だと、余計に人手がかかったり、勉強も必要になるなどといったケースもある。事務処理の簡素化の効果の延長に、先生方の研修時間の確保や、教員本来の時間の確保などといったこともある。これらを含めて、一步前進といったところである。 ・システムを入れたからと言ってすぐに業務の効率化が図られるかと言うとなかなか簡単なものでもないように思う。私の大学でも、リモートの授業と対面の授業を並行して行ったが、二度手間のような大変さがあった。学生の不利益がないという部分では、こういったものを導入しないといけないので、今後は、教員の慣れや使いこなすという部分になってくる。リモートの授業については慣れてしまえば、学生側は録音もでき、復習という意味でも良いものである。 ・実習や教育活動などを映像で撮って、オープンキャンパスの機会だけではなく、定期的に流していくと、学校への理解も高まると思う。日頃から、文字だけではなく映像という形で残していくと良い。 ・情報公開という観点から、ホームページをもう少し広く見てもらえると良い。この委員会の情報がホームページに出ていること自体あまり知られていないだろう。せっかくホームページを作っているのだから、ホームページにも学校の活動を掲載し、広く見てもらう。ホームページを作っても見てももらわないという意味がない。 ・昨年度の学校関係者評価委員会の議事録がホームページ上に公開されているが、学費の項目に掲載されていて、少し不思議に思った。学校関係者評価委員会の議事録の公開ということも、教育活動に関する情報公開になると思うので、もう少し掲載場所を考えると良い。 ・人事給与財務等の評価が落ちていく点気になる。当初から法規関係や組織的な規定というのは整備されているという評価であった。元々かなり高い評価であったと思うので、現状維持できると良い。あまり良くないという印象を職員の方が持っていたとすると、モチベーションにも影響するので、この点は気になる部分である。学校運営の中で検討してもらえると良い。
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において感染症対策を講じ、講師・実習施設との調整を図りながら、教育課程に基づいた授業を実施するなど、質の高い看護師、助産師の育成を目標に教育を実践した。 ・臨地実習では、受け入れが難しい施設については、他施設で受け入れられるよう調整を行い、調整ができない場合は、教員が症例患者を演じるなど現場に即した病床環境を学内で整えることで、学びの質を確保した。 ・新カリキュラムの作成に当たっては、改正の趣旨や教育の考え方、外部講師や実習施設から聴取した意見を踏まえ、実践を支える臨床判断やICT対応に関する基礎的能力を養うための新たな授業科目の設置や授業内容の変更を行った。 	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科において、教育の到達レベルや学習時間を明確にし、実践的な教育を目指して取り組んだ。 ・コロナ禍における実習では、臨地での実習が困難な場合、学内で実施することとしたが、学びの質を低下させることがないよう工夫するなど、教育活動においては、適切に対応することができた。 ・病院等との連携による教員の確保については、病院の事情により、講師派遣が難しいと言われるケースもあったが、施設、講師からの紹介や県関係機関との調整により、新カリキュラムの教育内容に適した講師を確保することができた。 ・今後は、外部講師や実習施設の看護管理者等と、現場で求められる能力や現任教育の現状等を意見交換、実施、評価し、教育内容に反映させていく。また、コロナ禍における臨地実習の実施については、引続き調整を図り、教育の場を確保していく。 ・職員の研修については、コロナ禍により研修の中止やWeb開催など、受講の機会は制限されたが、研修参加を希望する職員には、希望する研修を受講できるよう配慮し、受講の機会を確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価点の上では、全体的に概ね改善している。職員の能力の開発のための研修については、会場での研修は縮小され、リモートになるなどしている。この状況を踏まえれば、ここは通常の評価である。教員は校内の授業だけでなく実習にも行かないといけなかったので、なかなか勉強する時間が取れないのであろう。研修については前回は前回も前々回も、教員が忙し過ぎてしまい、参加の機会がないという評価であったと記憶している。心配をしている項目の一つであった。この評価項目が前回よりもさらに悪くなっているような状態では困るが、コロナという特殊な状況下で、平時とは異なる。 ・外部講師の先生を集め、学校の現状を報告し、意見交換をする講師会というものを、以前は年に1、2回実施していた。私は、この評価委員会で教員と意見交換ができる機会があるが、それ以外の外部講師の先生については、学校に来て、教えて帰るだけになってしまっている。この現状はこの取組と矛盾するものであると思う。講師会のように、外部講師の先生との顔合わせや報告のプランは持っていた方が良い。本項目の課題に沿った活動の一環であると思うので、こういった機会は是非検討して欲しい。 ・講師会は良いと思う。講師会などをやらせてもらえれば、カリキュラム全体の改正点や、それぞれの講師に期待する部分なども、もう少し理解できるのではないかと思う。職員の研修に関しては、コロナ禍ではあるが、研修の方法は集合研修だけではないので、もう少し工夫してもらえたら良い。 ・講師会については何回か出席した経験がある。色々な分野の先生方が参加している会で、そういったところで話を聞くと、私自身も参考になる話を聞くことができた。外部講師の立場としても、カリキュラムへの理解など、色々と分かりやすくなっていく部分もあるので、そういった機会を設けてもらえたら良い。 	

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(4) 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> 看護師、助産師を目指す人材が社会に出て活躍するために必要な国家資格の取得については、低学年から国家試験を意識した学力強化を行うほか、最高学年では、模試での成績不良者に対して不得意分野の対策を強化するなど、全員合格を目指して取り組んだ。 令和3年度の国家試験では、全3学科で全員合格、合格率100%を達成した。 保健師・助産師課程への進学者がおり、卒業後のキャリア形成の基礎を築くことができた。 助産学科では、学校説明会に卒業生が参加し、在校生との交流が図られた。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 「退学率の低減が図られているか」、「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家資格の取得では、令和3年度に実施した国家試験に全員が合格し、全3学科で国家試験合格100%を達成することができた。また卒業生は、希望どおりの就職、進学ができていますなど、学校の役割である地域で活躍する人材養成において、成果を上げることができた。 退学者については、令和3年度は前年度に比べ減少した。退学者を減らす取組として、入学前には、看護師、助産師を養成する本校を理解してもらいミスマッチがないよう、高校生を対象とした進路相談会や学校説明会で丁寧な説明に努めるとともに、入学後は、人間関係や学習への悩みについて相談できるよう、また適性の指導の機会として、カウンセラーによる相談体制を整えた。 卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握については、臨地実習病院に就職した卒業生に、病院との連絡調整会議や実習の機会を通じて把握に努めたほか、認定看護師等の取得者や地域在宅看護等に従事している卒業生に関しては、本校の講師をお願いするなど、学生が、卒業生の活躍を通して、目指すべき看護師像を描く機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率100%という目標を達成できたのでこれは素晴らしい成果だと思う。学生数が減っている点は心配なことではある。看護1学科も年々減少傾向にあり、看護2学科も入学生が3人となっている。一定のライン以上の学生しかとらないということも一つの方法だとは思う。入学後、3年間の教育が重要であるので、成果は出せていると思う。 この学校の強みは県立である。県立で授業料が安く質が高い、周囲からそういった声も聞こえてくる。看護協会などから聞いても、看護師の4年制志向の流れがあるのは間違いない。こういった影響もなきにしもあらずということだろうか。さらに授業料を安くして、優秀な人材を集めるということも悪いことではないと思う。優秀な人材を多く集めることができるような思い切った方法を考えて欲しい。 国家試験の全員合格というのは、何よりも評価を受けることができるポイントなので良かった。退学者については、学習をしていく間にモチベーションが落ちてしまうということがある。こういった学生をどのように維持していくのかと考えると、そこには動機があると思う。私のいる大学でも同じだが、資格を取得した方が良いからと、親や周囲から勧められて入ってくる学生もいる。こういった学生で挫折をする学生が、コロナ禍ということもあり多い。退学がこの程度で留まっているのは、学校としても頑張っている点であり、評価したい。 東部看護専門学校時代から、先輩方が非常に学校のことを愛してくださり、PRもしてくれる。実習時の先輩方の受け入れは非常に手厚い。卒業生との交流会のようなものがあると、就職に向けても非常に良いし、学校の雰囲気も良くなっていくのではないかなと思う。 国家試験100%合格については非常に良かった。国家試験合格率が100%、退学者数も減っているというのは、確実に先生方の教育の成果であると思う。自分たちの何が良かったのか、こういったことをしたことで効果が表れ上手くいったのかということ、先生方に考えて欲しい。こういったポジティブな面について、先生一人ひとりが認識できると、一人ひとりの自信にも繋がる。こういったことが良かったんだということが分かれば、次の学生に対する教育指導に生きてくる。上手くいった部分について考える機会を持つと良いのではないかなと思う。 退学率については、モチベーションが大きく関係する。学校側でも、学生のモチベーションを掲示物にして教室に貼ってある。目に見える形で学生のモチベーションを高めるような取組をしていることが良く分かる。こういった部分も、合格率や退学率の改善に影響しているのではないかなと思う。今年の1年生の入学動機には、学校や親に勧められたというものが一人もいなかった。それぞれが、自分自身のモチベーションを持って入学している。学校側でもそういった動機付けを大切にするという取組をやっている成果として、学生一人ひとりの意識の高まりのようなものが出てきているのではないかなと思う。成果が出ている部分については、学校としても謙虚にならずに、自信を持って、自分たちがこういった取組をしたから上手くいったんだ、ということを確認してやってもらえたら良いと思う。

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高校からの進路説明の要請を受けて出前説明会を開催するほか、高校生が参加する合同説明会に参加するなど、高校生に看護師という職業を知ってもらう機会を提供することができた。 ・学生の経済的負担を軽減する高等教育修学支援新制度や専門実践教育訓練給付金制度の対象校となっており、希望する学生が支援を受けられる体制を維持することができた。 ・卒業後の支援として、卒業生からの相談に個別に対応した。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 ・「卒業生への支援体制はあるか」、「高校等との連携による職業教育の取組が行われているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が積極的に高校に出向き、学生や保護者に本校に関する情報を提供するとともに、学生等から看護学校に対する関心事やニーズなどの情報収集に努めた。こうした高校、関係機関等と連携した取組を引き続き実施していく。 ・学生相談については、充実した学生生活が送れるように、人間関係や学習への悩み等の相談体制を整えており、令和3年度からは、カウンセラーを1名から2名(男性、女性各1人)に、相談日も月2回から4回に増やすなど、支援体制を充実させた。 ・学生への支援では、経済的支援として、授業料減免制度や各種奨学金制度を幅広く活用できるように対応するとともに、健康管理医による健康診断や感染症に対する指導・助言を実施した。 ・卒業生への支援体制については、卒業生から相談があった場合は、個別に対応するなど、取組を継続していく。また、助産学科では学校説明会に卒業生に出席してもらい、在校生と共に交流する機会を設け、お互いの情報交換、モチベーションの向上に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーを増やしたり、学校で相談窓口を設けることはとても良いことである。最近の学生の気質には共通の部分もあると思う。せっかくカウンセリングを受けられる体制を持っているので、学校をより良くするために活かして欲しい。個々の学生のカウンセリングをして終わりではなく、最近の学生が抱えている悩みなどを理解し、学生支援の部分に活かせると良い。 ・カウンセリングについては、学生本人から了解を得た上で、学校側にお伝えし、三者で協力して問題の解決に努めていくということもある。カウンセリングには守秘義務があるが、学校の様々な悩みは、学校と協力して解決していく方が現実的に上手く行くので、本人の了解を得た上で、出来るだけ、三者で協力して問題の解決に努めていく形を取れる方が良い。 ・カウンセリングの話については、対象が増えているのだと思う。カウンセリングの先生が空いている時間があれば、教員の悩みも聞いてもらえると良いのではないかなと思う。 ・私の大学では、障害学生の支援制度というものを採用している。例えば授業の受け方や、実習への参加の仕方などのルールづくりのときには、カウンセラーの先生に入ってもらい、カルテのようなものを作ることなどで教員間で共有している。また、授業の参加のさせ方等の支援計画を作っている。こういったことについて、カウンセリングの先生と一緒に支援をしていくということが、これから必要になることもあるかもしれない。 ・コロナ禍で学生がアルバイトができず、経済的に困窮している学生も出ていると聞いている。職員アンケートでは、課外活動に対する支援体制の評価点が落ちている。アルバイトについては、感染症対策の一つとして、原則禁止とのことだが、アルバイトの許可を出していても、コロナ禍でアルバイトが無くなってしまいうということもあるので、心配したところである。 ・経済的な負担は、メンタル面にも影響する部分でもある。授業料の減免や給付奨学金だけでは足りず、病院の奨学金を借りている学生もかなりいる。学生時代の奨学金などの借金について、卒業後の負担が大きいことが、全国的な問題にもなっている。難しい部分ではあるが、学生のメンタル面の健康という部分にも影響してくるので、経済的な支援がさらにできる方法があると良い。
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として新型コロナウイルス感染症対策を定め、全職員、全学生が感染拡大防止に取り組んだ。 ・具体的には、毎日の体調チェック、消毒、うがい、マスク着用など日常の健康管理のほか、県をまたぐ移動の制限や原則アルバイト禁止といった行動制限についても、国の発表する評価レベルに基づき実施した。 ・コロナ禍で対面での授業の実施が難しい場合には、遠隔での授業を取り入れるなど、学びの確保に努めた。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境を整えることについては、コロナ禍であったが、学校として定めた新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染拡大防止に取り組むなど適切に対応することができた。 ・感染症対策として具体的に定めた事項に対して徹底して取り組んだ。結果として、学生に陽性者は出たものの、校内での感染拡大はなく、実習施設への影響も防ぐことができた。今後も、日々の取組を継続し、感染拡大防止に努めていく。 ・校内の施設、設備については、耐用年数の到来や故障等のタイミングで順次更新や適時の補修を実施しており、引き続き学ぶ環境の確保と安心、安全な教育のための施設整備を図っていく。 ・防災訓練については、実動訓練などコロナ禍で一部実施を控えたものもあったが、令和4年度は、感染状況を見ながら必要な訓練を行い、学生への防災意識への喚起に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のアンケート結果でも、評価が改善している。陽性者が学生で出たとしてもクラスターにならずに単発で終わっている。現場で新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行うことができている評価の表れである。 ・実習前の抗原検査の方法など、受け入れ病院と協力して臨地実習が行われていることが分かったので良かった。昨年度は、実習を断られたというような病院もあったので、事前に実習病院と調整をすることもとても大事であると思う。 ・私が講義に行った際も、以前に比べ各機材がスムーズに使えるようになるなど、使いやすくなったと実感している。防災に関しても、いつ何が起こるかかわからないので防災訓練については引き続き実施してもらえると良い。 ・昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、私の講義も、後半の2コマをリモートで実施した。対面の授業が一番良いが、どうしても難しい場合には、遠隔でもやることもできた。状況に合わせて対応ができたということは、学校の対応としても良かったのではないかなと思う。 ・防災訓練については、いつどういったことが起こるか分からない。コロナの心配はあるが、防災訓練については、引き続き実施してもらえると良い。 	

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWeb方式で開催し、コロナ禍においても、学校のPRの機会を確保した。 学生募集に当たっては、県内全ての高校に募集要項を送付し、さらに、応募の少ない看護2学科の志願者増加に向けた取組として、准看護師が就業している病院等への募集要項の送付による周知や、県看護協会主催の准看護師を対象とした研修の場での学校紹介など、機会を捉えて効果的な募集活動を行った。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.1点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で、7割程度が“やや適切”または“適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者の増加に向けて学生募集活動を行っており、本校のホームページや、県公式LINE、Twitter等の各種広報媒体を活用した効果的な広報を実施したほか、学校説明会や高校生を対象とした進路相談会等の機会を通じて積極的にPRを行うなど、概ね適切に対応することができた。 令和4年度の学生募集活動において、令和3年度に実施した国家試験で合格率が100%となった成果をPRすることで、効果的な広報の展開を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート結果の評価点も高くなっている。学校説明会など学生の受入れ募集の活動が評価されたことである。これをさらに発展させるのが、ICTの活用だと思う。ホームページや、各SNSを活用しているとのことなので、さらに広く身近な形で色々な人に見てもらい、学校の活動を知ってもらおうと、学生の応募が増えたり、この学校の存在意義を高めることにつながると思う。引き続き頑張っ取り組んで欲しい。 職員アンケート結果の評価点も高く、頑張っていることが分かる。先生方も高校などの説明会に熱心に参加するなど、こういった成果が出ているのかもしれない。ホームページなどでも、学生にはできるだけ参加してもらい、外に向けて発信できると、身近に感じ良いのではないかなと思う。国家試験合格率100%は学校の売りにもなるので、PRに是非使って欲しい。 学生の受け入れ募集については、積極的に先生方が動いているということが分かって良かった。学校のホームページだけでなく、各種SNSを活用されているようである。色々な手法を使ってPRをすることは大事なことで、この点も良かった。 学校説明会については、新型コロナウイルス感染症対策としてWeb開催ということであったが、Web方式の良いところに参加のし易さがある。東部地域から進学する学生が多いとは言っても、東部地域も広く、学校まで足を運ぶのも大変なので、Web開催は良い方法であると思う。また、学校説明会では、学生との質問コーナーが設けられており、受験を考えている高校生などと、実際に学んでいる学生が会話をすることが作られていることはとても大事なことである。 ホームページを確認すると学校紹介の動画が掲載されており、これを見ただけでも学校の様子が分かった。映像の発信というのは効果的であると思うので、今掲載している動画以外でも、学生が実際に演習をしている様子のように、普段の学校の教育活動を伝えることができる動画なども良いのではないかな。
(8) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の遵守については、特に個人情報の取扱いに慎重を期し、漏洩や不正使用のないよう厳格な管理を行った。 学校関係者評価において、外部からの意見を取り入れるため、令和2年度に学校関係者評価委員会を設置し、2回目となる委員会を開催して、学科運営の改善に向けた意見をいただいた。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.0点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で、約6割から9割が“やや適切”または“適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令等を遵守した学校運営に努めた。その取組について自己評価を行い、学校関係者評価委員会において、委員からいただいた意見を踏まえ、必要な改善に向けて取り組むなど、適切に対応することができた。 引き続き、学校運営に関する諸課題の解決に向けて取り組むなど、適正な学校運営に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> この項目については、過去2回の評価委員会でも一番良い評価であったと思う。県立の学校として法律に基づいた運営がなされているということが良く分かり評価できる。 学校関係者評価委員会について、本評価委員会が法令等に基づき開催されているという記載となっているが、本評価委員会は学校運営に関する諸課題を解決するものであるもので、学校運営や教育活動につながる話であると思う。法令等に基づいて委員会を作ったということだけでは意義が小さい。学校を良くするために委員会を発足しているもので、学校運営などの他の項目でも評価できると良い。 評価委員会については、委員の御意見のとおりである。一番気を付けて欲しいのが個人情報の保護、漏洩についてである。この点については引き続き、職員、学生に対してしっかりと教育、徹底すること、また、チェックができる体制を作ることが大切であると思う。既に行われていることであると思うが、引き続き取り組んで欲しい。 自己評価の問題点の改善を行っているかということについては、職員アンケートで「やや不適切」が9人いるが、「不適切」と回答した職員が0人だった。昨年度の本委員会で意見を言わせてもらったことについても、色々取り組んでもらえたという実感がある。例えば、学校の実態に合わせて職員アンケートの評価項目が修正されていることなどがある。また、本日の資料についても、令和3年度の取組状況、評価や取組が順番に書かれており、非常に分かり易かった。委員自身としても、こういった資料を配布してもらえると非常に分かり易いし、本委員会が出た意見に対して取り組んでいる動きも分かるので、良かった。

評価大項目	令和3年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(9) 社会貢献、地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献として、災害時に本校の施設を活用できるよう、本校が立地する清水町と福祉避難所としての活用に関する協定を締結した。 ・助産学科の学生が地域に出向き健康教育を実施したほか、県消防学校への講師派遣、新型コロナウイルス感染症対策への協力・支援として、富士地区薬剤師会主催のワクチン接種講習会、大規模ワクチン接種会場への協力を行った。 ・県看護協会が実施する事業への協力として、准看護師進学支援研修会、静岡県専任教員養成講習会等、東部地区支部事業に教員を講師として派遣した。 	2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.0点であり、“やや不適切”から“不適切”の評価が多い。 ・特に、「地域に対する公開講座等の積極実施」については、“やや不適切”または“不適切”が約8割となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師、助産師を養成する専門学校が地域においてできる各種の取組を、関係機関と協働して進めることができた。 ・今後、公開講座の開催や学生のボランティア活動の推奨について、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、実施の可否を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清水町と福祉避難所の協定を締結したことや、ワクチン接種講習会へ協力などを確認すると、職員アンケート結果が昨年度よりも低くなっていることは、実際の活動状況と合っていない。これらの取組が、職員の間で周知されていないのかもしれない。昨年度の評価委員会では、対外的な事業があまりなかったのもう少し一定の活動をやってはどうかということを示した。コロナ禍で大変な中ではあるが、コロナや災害に関連する出来る範囲のことはやられていると思う。社会貢献に一步前進したのではないかと、評価できる項目である。 ・消防署との連携は、私たち病院でも良く行うことであり、例えばAED講習会をやっている。この学校にもAEDが設置されているが、消防署と交流が出来るのであれば、学校でAED講習会などをやってもいいのではないかと。看護、医療に携わる学生にとっても実益があると思う。カリキュラム上、時間を確保できないのかもしれないが、是非検討して欲しい。こういった取組が更にできると、社会貢献、地域の絆という部分で、さらに前進できるのではないかと。 ・令和3年度の取組状況を確認すると、職員アンケートの評価を低く付ける必要は無いのではないかと印象である。社会貢献や地域貢献の基準について、どのくらいやれば良いのかという一律の標準的な基準を、先生方が持っていないのであろう。何が出来るのかということや、やったことを書き出して皆で共有すると良いと思う。ホームページで、やっていることを広くアピールすることも重要だと思ふ。学校として、これだけのことに取り組んでいることは、社会貢献や地域貢献に繋がることであると思うので、まずは意識化することが必要である。皆で話し合ったり、確認をする場を作ると、自分たちがやっているんだという自信にもつながる。学校のPRにもなるので、是非こういった取組をして欲しい。現在の取組内容は、決して、職員アンケート結果の2.0点の評価では無いと思う。 ・評価項目については、実際の活動状況よりも、職員アンケート結果の評点が低くなっているんだろうと感じている。例えばコロナ禍の前であれば、文化祭に地域の方を招待し、地域貢献につながる場もあったと思うが、文化祭も中止となり、実際に出来なかったという部分もあったのであろう。ここまでの委員の意見のとおり、ここに書かれていることだけでも、色々な活動をされているので、近隣の地域との接点は減ってしまっているのかもしれないが、新型コロナウイルス関連などの取組も地域貢献には変わらないので、先生方一人ひとりが認識できると良い。 ・委員の意見のとおりで、一つ一つの活動を確認すると、立派な地域貢献をされていると思う。教員の考える地域貢献とはどういったものなのか確認して欲しい。